

はじめに

日田市立博物館は複合文化施設(アオーゼ)に移転してから、平成30年8月で丸2年を経過しました。この間、多くの市民の皆さまや学校や公民館にもご活用いただきながら、入館者も3万人を超えることができました。移転して以降、館内から毎日のように子どもたちの楽しそうな笑い声を聞きますと、博物館の整備を行って本当によかったと改めて実感する今日この頃です。

しかし、博物館は何もしなければ、すぐに飽きられてしまいます。そのために、日田の自然や暮らしに関わる特別展や企画展のほか各自然教室を充実させていく必要があります。また、展示はあくまで日田の自然や暮らしの一部を写真や資料で紹介しているにすぎませんので、博物館から飛び出して実際の現地の様子を市民に知っていただき、興味を持ってもらうための工夫を行っていく必要があります。さらに、子どもたちには、科学の楽しさや面白さを知ってもらうための実験イベントにも参加してもらい、科学の目を持つたくさんの子どもたちを育てていくことに力を入れていくことも重要です。

こうした博物館の多面的な事業を押し進めていくためには、自然史専門学芸員の配置が大きな課題となっていましたが、平成29年度からは広島大学総合博物館の学芸員を経た橋本知佳さんが当館の学芸員に配属され、平成30年度からは正式な職員となり、その知識を博物館のために存分に発揮してくださっています。

こうした成果は、2年目となる平成29年度、3年目となる平成30年度の入館者数が開館初年度とほぼ変わらない数字を残せていることに端的に表わされています。これからも博物館が市民から、「より楽しくなった」といわれるような事業運営を、各関係機関のご協力をいただきながら進めてまいりたいと存じます。

平成31年2月

日田市立博物館長 梶原文人

《 目 次 》

はじめに

I	平成 29 年度の概要	1
	1. 博物館の施設概要	
	2. 組織・運営体制	
	3. 博物館日誌	
	4. 入館者の状況	
	5. 博物館の評価	
II	調査活動	13
	1. 大山層足跡化石発掘調査事業	
	2. 市内の淡水貝類生息調査	
	3. 埋没樹木の確認調査	
III	教育普及活動	16
	1. 展示事業	
	(1) 特別展	
	(2) 企画展	
	(3) 第 56 回小・中学生自然研究作品展	
	2. 普及啓発活動	
	(1) アオーゼ 1 周年記念事業	
	(2) 小・中学生対象自然観察教室(自然探検隊)	
	(3) 夏休み小・中学生対象自然教室	
	(4) 夏休み図書館・博物館スタンプラリー	
	(5) MKG(三隈川)総選挙	
	(6) 一般市民対象自然教室	
	(7) 職場体験の受け入れ	
	(8) 博物館実習の受け入れ	
	(9) 博物館見学(団体)	
IV	その他	41

I 平成 29 年度の概要

日田市立博物館は、昭和 35(1960)年 12 月 1 日に開館しました。建物の老朽化に伴い、平成 28(2016)年 8 月 5 日に、複合文化施設アオーゼ 3 階へ移転し、本年度で 2 年目を迎えました。

1. 博物館の施設概要

(博物館の面積) 1,176.94 m²

- ・常設展示室 495.23 m²
- ・企画展示室 49.92 m²
- ・収蔵庫 198.09 m² (1 階/24.30 m² 2 階/18.91 m² 3 階/154.88 m²)
- ・事務室 91.71 m²
- ・ボランティアルーム 48.54 m²
- ・エントランス・通路 150.72 m²
- ・トイレ 33.72 m²
- ・給湯室 6.88 m²
- ・倉庫 102.13 m² (機材倉庫 75.37 m² 書庫 26.76 m²)

※複合文化施設全体の面積 2,036.92 m²

- ・敷地面積 5,708.7 m² (駐車場普通車 52 台収容)



日田のなりたちゾーン



自然と暮らしゾーン(手前は地形ジオラマ)



水辺の生き物ゾーン



企画展示室

2. 組織・運営体制

博物館職員

平成 29 年度は、社会教育課長が博物館長兼務となり、新たに自然史専門学芸員として橋本知佳さんが配属となり学芸係が設置されました。平成 30 年度は、博物館長が梶原社会教育課長兼務となり、橋本知佳さんが職員正式採用として改めて学芸係に配属となりました。平成 29 年度及び 30 年度の職員体制については以下のとおりです。

《平成 29 年度博物館職員》

職名	氏名	備考
館長(社会教育課長)	池田 寿生	平成 29 年 4 月 1 日～30 年 3 月 31 日
主幹(総括)	行時 志郎	平成 19 年 4 月 1 日～
主査	橋本 知佳	平成 29 年 4 月 1 日～30 年 3 月 31 日(任期付)
主任	田吹 隆一	平成 29 年 4 月 1 日～
臨時職員	櫻木 健二	平成 29 年 4 月 1 日～30 年 3 月 31 日
臨時職員	園田 麻耶	平成 29 年 4 月 1 日～30 年 3 月 31 日

《平成 30 年度博物館職員》

職名	氏名	備考
館長(社会教育課長)	梶原 文人	平成 30 年 4 月 1 日～
主幹(総括)	行時 志郎	平成 19 年 4 月 1 日～
主任	橋本 知佳	平成 30 年 4 月 1 日～(正式採用)
主任	田吹 隆一	平成 29 年 4 月 1 日～
臨時職員	矢野 美穂	平成 30 年 4 月 1 日～
臨時職員	矢羽田 栞	平成 30 年 4 月 1 日～

博物館協議会

博物館協議会は、市民有識者や専門研究者を中心に博物館の運営に対して意見や助言を行うために昭和 36 年に設置されました。委員の任期は 2 年のため、平成 29 年 4 月 29 日に新たな博物館協議会委員の委嘱状を市の条例に従い交付いたしました。

平成 29～30 年度の博物館協議会委員は以下のとおりです。

《平成 29～30 年度博物館協議会委員》任期:平成 29 年 4 月 1 日～31 年 3 月 31 日

	役 職	氏 名	専門領域	備 考
1	委員長	古田京太郎	植物生態	市議会議員
2	副委員長	奥森 修二	鳥類	日本野鳥の会日田支部
3	委員	園田 匠	環境	ひた水環境ネットワークセンター
4	委員	五島 英司	昆虫	昭和学園高校
5	委員	梶原 浩	植物	ひた少年少女発明クラブ
6	委員	石原 康弘	地質	光岡小学校
7	委員	渡邊 良枝	—	女性有識者
8	委員	木戸 道男	地質	久留米大学
9	委員	合谷 勝彦	植物	日田自然愛好会
10	委員	郡山 治久	—	小中学校理科主任代表

・博物館協議会の開催

平成 29 年度の博物館協議会は、以下の通り開催いたしました。

	開催日	人数	議事内容
第 1 回博物館協議会	平成 29 年 4 月 29 日	7 名	委嘱状交付、委員長・副委員長選任、平成 29 年度事業計画
第 2 回博物館協議会	平成 29 年 9 月 16 日	5 名	小・中学生自然研究作品展審査
第 3 回博物館協議会	平成 30 年 2 月 24 日	9 名	平成 29 年度事業報告

3. 博物館日誌

- 4 月 13 日 すずめの学校見学
- 4 月 23 日 春の自然観察会開催（別府市猪の瀬戸湿原）
- 4 月 26 日 教育次長レク
- 4 月 27 日 新公民館長内覧（2名）
- 4 月 29 日 第 1 回博物館協議会開催(辞令交付式)
- 5 月 2 日 春の星空観望会開催（桂林小学校）
- 5 月 7 日 平成28年度企画展「水郷日田の源流を巡る」終了
- 5 月 9 日 燻蒸処理開始（～11日）
- 5 月 13 日 福岡大学学生見学
- 5 月 16 日 やまびこ学級見学
- 5 月 19 日 福岡県老人会見学
- 5 月 24 日 東有田社会福祉協会見学
- 5 月 27 日 特別企画展「地震より学ぶ～断層活動と熊本地震」開催（～7月2日まで）
自然観察教室開催（釈迦岳）
- 5 月 28 日 春の探鳥会開催（大川内山）
- 5 月 31 日 ルーテルこども園見学

- 6月10日 特別企画展講演会開催
- 6月14日 西有田公民館見学
- 6月18日 東有田中同窓会見学
- 6月22日 ルーテルこども園見学
- 6月24日 自然観察教室開催（シオジ原生林）
- 6月25日 若宮小学校見学
- 6月28日 延寿寮見学
- 6月29日 アオーゼ消防訓練
- 6月30日 小野孝先生寄贈図書持参（佐藤先生）
- 7月2日 特別企画展終了
- 7月5日 九州北部豪雨被害（アオーゼ緊急避難所となる）
- 7月15日 企画展「日田で見られる昆虫大集合展」開始（～10月9日）
企画展講演会、MKG（三隈川）総選挙（～8月17日）
- 7月21日 大山公民館来館（20名）
- 7月22日 昆虫教室開催（萩尾公園）
- 7月29日 夏の星空観望会開催（桂林小学校）
- 7月30日 植物教室開催（釈迦岳）
- 8月1日 淡窓図書館との合同イベント開催（～13日）、博物館実習受入（～11日）
- 8月2日 高瀬学童見学（40名）
- 8月5日 干潟観察会開催（中津市）、公民館主事見学（13名）
- 8月6日 アオーゼ1周年記念イベント「ギギ男爵からの挑戦状」開催
- 8月8日 科学実験教室開催
- 8月9日 OAB企画展取材、筑後川フェスティバル実行委員会来訪
- 8月10日 マリオワールド夢工房展示協議
- 8月19日 MKG（三隈川）総選挙結果発表
- 8月20日 植物昆虫同定会開催
- 8月23日 NHK企画展取材、もっと知ろう！ひた講座協力（博物館案内）
- 8月26日 自然観察教室開催（田来原）、オーバーナイトマラソン協力（天体観察）
- 8月30日 月隈こども園見学
- 8月31日 ルーテルこども園、月隈こども園、桂林病院託児所見学
- 9月5日 県立博物館長来館（大分県博物館協議会入会依頼）
- 9月7日 夏休み作品搬入締切、北部中2年生職場体験実施
- 9月12日 夏休み作品理科主任審査（～14日）
- 9月14日 大山公民館見学（20名）
- 9月15日 博物館点検作業（乃村工藝社）
- 9月16日 第2回博物館協議会開催
- 9月17日 夏休み小・中学生自然研究作品展開始（～10月1日）
- 9月21日 昭和学園高校職場体験（2名）
- 9月23日 自然観察教室開催（曾田の台、曾田の池）

9月27日 足跡化石切取搬入
9月28日 三隈中学校見学
9月29日 三隈中学校見学、
10月1日 夏休み作品展展示終了
10月5日 西有田公民館見学、朝日小学校見学
10月6日 なかつえ保育園見学
10月7日 秋の自然観察会開催（黒川清流の森）
10月9日 企画展「日田で見られる昆虫大集合展」終了
10月13日 いつま小学校見学
10月14日 筑後川フェスタ協力「水郷日田の源流パネル展」（福岡市役所）～15日
10月17日 光岡小学校見学
10月24日 三芳小学校見学
10月25日 田川郡社会教育振興協議会见学
10月28日 企画展「日田の山々と信仰展」開始（～1月28日まで）
11月2日 光岡小学校見学
11月7日 東溪小学校見学
11月17日 大山小学校見学
11月18日 自然観察教室見学（カシノ木ヅル谷）
11月19日 秋の探鳥会開催（萩尾公園）
11月23日 屋久島小学校見学
11月24日 桂林小学校見学
11月28日 石井小学校見学
12月14日 みそらこども園見学
12月21日 三芳公民館見学
1月17日 三隈中学校職場体験（～18日）
1月19日 朝日こども園見学
1月28日 企画展「日田の山々と信仰展」終了
2月4日 冬の探鳥会開催（亀山公園）
2月9日 大明中学校職場体験
2月20日 三和小学校見学
2月23日 東峰村教育委員会視察、小野小学校5・6年生見学
2月24日 第3回博物館協議会開催
3月10日 特別展「太古の湖とそこで暮らした生きものたち」開始（～5月6日）
3月25日 特別展講演会開催

4. 入館者の状況

平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日までの年間入館者数は以下のとおりです。

平成 29 年度入館者数(人)

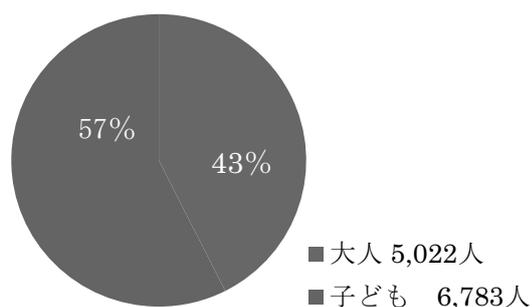
	開館日数	大人	子ども	合計	市内	市外
4 月	26	369	307	676	610	66
5 月	26	498	280	778	526	252
6 月	26	437	526	963	916	47
7 月	26	227	354	581	495	86
8 月	27	819	1,519	2,338	1,991	347
9 月	26	570	672	1,242	1,142	100
10 月	26	488	711	1,199	1,094	105
11 月	26	573	841	1,414	1,291	123
12 月	24	212	313	525	466	59
1 月	24	271	275	546	446	100
2 月	24	238	526	764	716	48
3 月	27	320	459	779	636	143
合計	308	5,022	6,783	11,805	10,329	1,476

(開館日数 308 日／休館日 57 日)

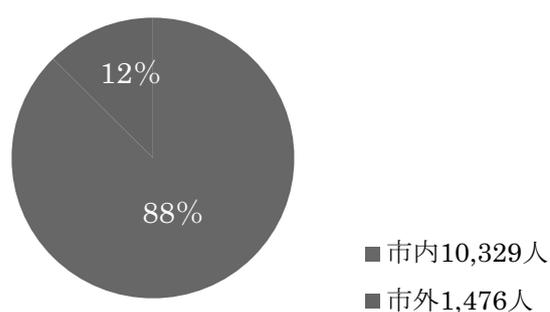
※7 月は北部九州豪雨によりアオーゼが避難所となったこともあり、入館者が一時的に減少しています。

入館者数の比較

大人と子どもの割合



市内と市外の割合



平成 29 年度の入館者の割合を比較すると、子どもが大人に比べて多く、博物館が子どもたちによく利用されていることがわかります。また、市内からの入館者と市外からの入館者数を比較すると、およそ 9 割が市内であり、市外からの入館者は全体の 1 割程度と少ないことがうかがえます。

また、全体の入館者数は 11,805 人となり、昨年度の 13,490 人と比べると減少していますが、開館 2 年目であることや、7 月の九州北部豪雨の影響もあったことによるものと推測されます。

過去の博物館入館者数の推移

単位：人・日

年度	入館者数	開館日数	年度	入館者数	開館日数	年度	入館者数	開館日数
昭 35	14,129	95	54	6,257	298	10	2,111	307
36	23,822	299	55	5,112	301	11	3,302	296
37	13,486	302	56	5,199	298	12	2,040	293
38	10,138	305	57	4,847	279	13	2,588	297
39	14,222	305	58	4,138	296	14	2,263	298
40	14,819	294	59	2,100	297	15	2,553	299
41	10,335	300	60	2,823	301	16	1,968	298
42	17,670	298	61	2,451	296	17	2,004	299
43	13,587	295	62	2,506	301	18	2,005	299
44	12,564	296	63	2,581	298	19	1,855	301
45	12,900	294	平元	1,172	299	20	1,864	302
46	11,257	303	2	1,529	295	21	2,395	307
47	10,336	301	3	2,471	296	22	2,355	307
48	8,834	299	4	1,938	296	23	2,633	303
49	8,797	302	5	1,723	302	24	2,302	306
50	7,332	295	6	3,596	298	25	2,491	306
51	6,937	279	7	2,182	298	26	2,904	304
52	5,966	300	8	2,301	301	27	2,935	303
53	6,328	299	9	1,788	291	28	13,490	204

5. 博物館の評価

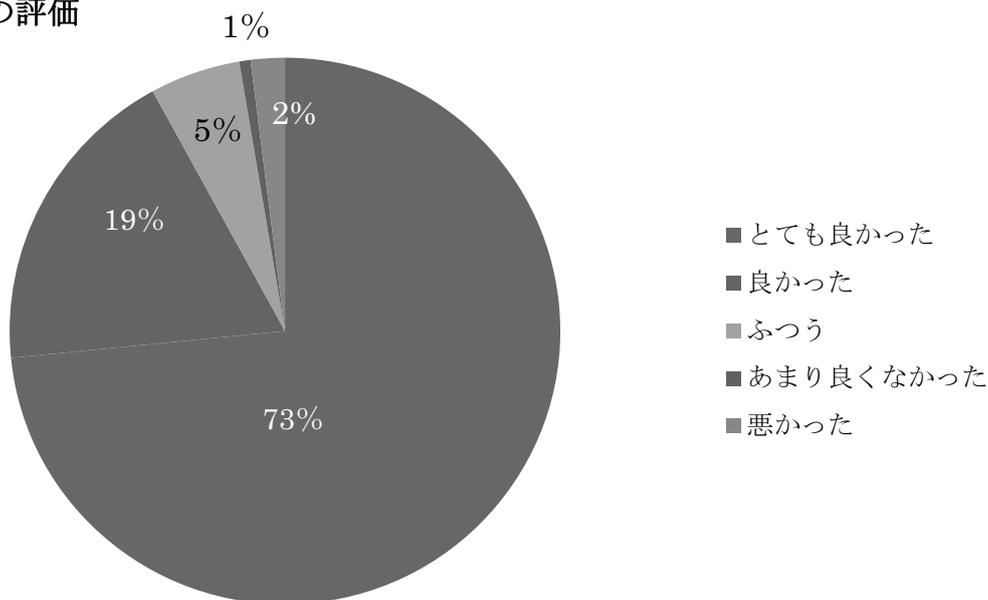
博物館では、平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月まで来館者の意見を聞くためのアンケート調査を行い、博物館に対する評価を 5 段階(1 とても良かった 2 良かった 3 ふつう 4 あまり良くなかった 5 悪かった)に分けて、記入していただきました。

来館者の博物館に対する評価

	1	2	3	4	5	合計	アンケート記入者の年代別数
4 月	24	2	0	0	0	26	中学生以下 19、高校～30 代 1、40～50 代 1 60 以上 5
5 月	24	6	3	1	2	36	中学生以下 18、高校～30 代 9、40～50 代 5 60 以上 5
6 月	20	6	3	0	1	30	中学生以下 21、高校～30 代 2、40～50 代 3 60 以上 2
7 月	17	1	0	0	0	18	中学生以下 15、60 以上 2
8 月	31	13	4	1	1	50	中学生以下 29、高校～30 代 9、40～50 代 11 60 以上 3
9 月	14	8	2	0	0	24	中学生以下 16、高校～30 代 3、40～50 代 4 60 以上 1
10 月	20	3	3	0	1	27	中学生以下 18、高校～30 代 6、40～50 代 2 60 以上 2

11月	30	7	0	0	1	38	中学生以下 29、高校～30代 2、40～50代 3 60以上 2
12月	10	5	0	0	0	26	中学生以下 11、高校～30代 4、40～50代 1
1月	12	2	1	0	0	15	中学生以下 6、高校～30代 2、40～50代 2 60以上 4
2月	3	2	0	0	0	5	中学生以下 3、60以上 1 未記入 1
3月	16	1	0	0	0	17	中学生以下 21、高校～30代 3、40～50代 5 60以上 4
合計	221	56	16	2	6	301	

来館者の評価



301 人の方がアンケートに答えてくださいました。集計すると、92%の方がとても良かった、あるいは良かったと評価しています。とくに中学生以下の子どもたちに好評のようです。また、悪いと書かれてあった回答の多くは市外から来館された方によるものでした。アンケートの要望を見ると、当館の展示が来館者の期待するイメージ(歴史博物館や考古博物館)とそぐわなかったためと思われる。

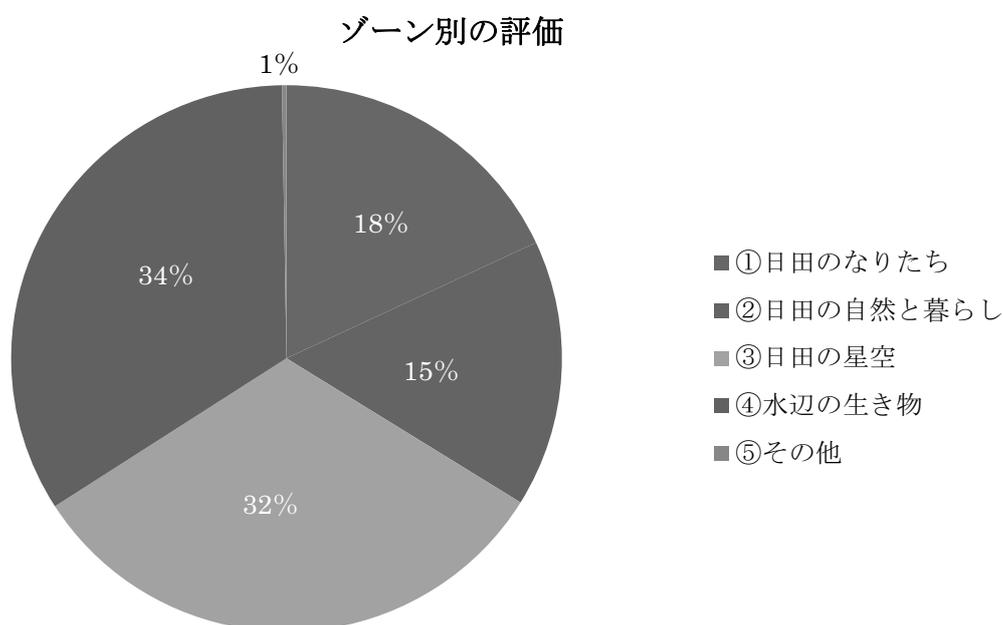
また、博物館ではいくつかのゾーンに分けて展示を行っているため、ゾーンごとの評価に関するアンケートも合わせて行いました。アンケートでは、①日田のなりたちゾーン、②日田の自然と暮らしゾーン、③日田の星空ゾーン、④水辺の生き物ゾーン、⑤その他としました。

来館者のゾーン別評価(二つ以上のゾーンによかったと記した回答あり)

	①	②	③	④	⑤	合計	アンケート記入者の年代別数
4月	10	6	13	10	1	40	中学生以下 19、高校～30代 1、40～50代 1 60以上 5
5月	5	9	15	17	2	48	中学生以下 18、高校～30代 9、40～50代 5 60以上 5
6月	5	8	13	14	1	41	中学生以下 21、高校～30代 2、40～50代 3 60以上 2
7月	5	9	8	10	0	32	中学生以下 15、60以上 2
8月	13	7	21	30	2	73	中学生以下 29、高校～30代 9、40～50代 11 60以上 3

9月	4	4	11	15	0	34	中学生以下 58、高校～30代 26、40～50代 14 60以上 15 未記入 4
10月	3	3	11	11	3	31	中学生以下 18、高校～30代 6、40～50代 2 60以上 2
11月	11	7	21	16	1	55	中学生以下 29、高校～30代 2、40～50代 3 60以上 2
12月	4	5	8	7	1	25	中学生以下 11、高校～30代 4、40～50代 1
1月	5	1	5	4	1	16	中学生以下 6、高校～30代 2、40～50代 2 60以上 4
2月	1	3	1	3	0	9	中学生以下 3、60以上 1 未記入 1
3月	15	10	17	15	0	57	中学生以下 21、高校～30代 3、40～50代 5 60以上 4
合計	81	71	144	152	12	460	

※⑤その他の回答は体験コーナー・企画展



アンケート調査の結果、④水辺の生き物ゾーンがよかったと答えた方が最も多く、生態展示が高く評価されていることがうかがえます。次に宇宙をテーマとした③日田の星空ゾーンの体験型展示が人気であることがわかりました。

また、①日田のなりたちや②自然と暮らしゾーンについては6人に1人の割合でよかったと回答しています。②日田の自然と暮らしゾーンでは、1. 日田の創生や地形、地質、植生などを表したジオラマ 2. 壁面に日田の自然や文化、暮らしなどを紹介した映像 3. 日田の人々の暮らしの変化を絵で表現した川と人との関わり大絵巻 4. その他(剥製や昆虫標本、下駄、筏流しの道具、漁具、鵜飼ジオラマ)として、その中のどのコーナーがとくによかったのかをアンケート調査したところ、1. ジオラマ 26人 2. 日田の紹介映像 36人 3. 川と人との関わり大絵巻 26人 4. その他 3人(下駄輪積み・鵜飼ジオラマ)という回答が得られました。

この結果から、来館者の興味などによって見る視点も違っていることがうかがえました。

また、アンケートでは、展示を見て博物館の感想や意見、要望等を自由に書き込んでもらいました。以下、おもなものを紹介します。

【感想と意見】

- ・あそ山ふんかのジオラマが面白かったです。(男性・中学生以下・市内)
- ・日田の星空ゾーンはいろいろな星が学べてよかったです。わかりやすい説明を書いてくれればうれしいです。(女性・中学生以下・市内)
- ・普段気がつかない事がわかってよかったです。(女性・高校生～30代・市内)
- ・今日はゆっくり拝見できてとてもよかったです。日田のなりたち、水辺の生き物等、勉強になりました。(女性・60代以上・市内)
- ・昆虫等の標本はとてもよかったです。日頃気にもとめていなかった生物の名前等がわかり、自然に対する関心が高まりました。(女性・60代以上・市外)
- ・子供達と2回目です。とても気に入っているようで、今日は昆虫を展示している引き出しをたくさん見ました。とても楽しく勉強になります。(女性・高校生～30代・市内)
- ・親子で一緒に楽しめました。また来たいです。(女性・高校生～30代・市外)
- ・土地の歴史を知っているようで知らない日田を見ることができてよかったです。もっと地元にも県外の人にもアオーゼに来てみたら良いのになと思いました。外(福岡など)の博物館なみにすごいと思いました!!(女性・40～50代・市内)
- ・大分市にもこのような博物館があったらいいと思いました。(男性・高校生～30代・市外)
- ・とても綺麗で楽しかったです。デイサービスで来ましたが、皆喜ばれました!!又来ます。(男性・60代以上・市内)
- ・環境、山、水(川)、自然を大切に、これからも日田を守ってゆこうと強く思いました。とてもよかったです。(女性・40～50代・市内)
- ・水辺の生き物をほの暗い中でじっと見ていると落ち着きます。(女性・市内)
- ・大変興味深い展示で楽しませていただきました。もっとお知らせしたいです。(女性・60代以上・市外)
- ・星空ゾーンで自分の星座を探したりするのが楽しかった。(男性・中学生以下・市外)
- ・高校の頃まで日田市で過ごしてきました。昔の博物館からすごく変わっていて驚きました。市内外のたくさんの人に見てもらいたい。日田の誇れる博物館だと思います。(男性・高校生～30代・市外)
- ・浮羽への里帰り中、立ち寄りしました。すごーくよかったです。関東にもこんな所、なかなかありません。日田へ来る時は、また来ます。他の人もここを知らないと思うので、良かったよ!!と話しておきます。8才の息子も大喜びでした。(女性・40～50代・市外千葉県)
- ・夏休みの帰省中に立ち寄りしましたが、とても面白かったです。これだけ多くの展示物があるのに驚きました。(正直、これで無料でいいのかなとも思いました)また、来たいです。(女性・高校生～30代・市外)
- ・展示品がどれもすばらしく、よくまとめてあり、読みごたえがありました。(女性・40～50代・市外)
- ・魚や亀をお世話するところが見れて、うれしい。(女性・中学生以下・市内)
- ・スゴロクやパズルなどがあって、とても良かったです。(女性・中学生以下・市外)
- ・映像もきれいで、火山から日田の成り立ちや、水辺の生き物等見れて楽しかった。(女性・40～

50代・市内)

・子どもが大好きで何度も来ています。どのコーナーも好きです。「火山から日田盆地ができる」所を見るのが好きです。(女性・高校生～30代・市内)

・日田の方々は無料でこういう施設があり、とてもうらやましいです。(男性・40～50代・市外)

・キャラクターがとてもかわいいようで、小さな子も楽しんでビデオなどを見ているところがよいと思いました。(女性・高校生～30代・市内)

・オヤニラミが可愛かった。指した指についてきて、興味深々でしたね。(女性・高校生～30代・市内)

・大変参考になりました。地球誕生から第四紀までの説明がわかりやすくすばらしいです。内容が富んでいてすばらしいです。無料ではもったいない。(男性・60代以上・市外)

・日田のことがよくわかりました。(住んでいる)北海道にもつくってほしいです。おもしろかったです。(男性・中学生以下・市外)

・釈迦岳には毎年行ってます。秋は最高に良いです。草花の写真を毎回写しています。名前がわからなかったが、ここに来て分かりました。(男性・60代以上・市内)

・水槽の管理が良くていつ見てもすがすがしいです。(女性・60代以上・市内)

・豆田町並みでもっとPRしてください。こんなすばらしい展示を多くの人に見てもらわないともったいないです。(男性・高校生～30代・市外)

【要望】

・魚の種類をもっとふやしてほしい。(女性・中学生以下・市内)→(回答)調査で採集できたら増やしていきたいです。

・お魚の楽しい絵(額に入っているポスター)の絵はがきなどがあるとうれしいです。(女性・60代以上・市内)→(回答)イベントの記念品などにキャラクターが入ったカレンダーやシールをプレゼントしていますので、是非ご参加ください。

・初めて来たので今までどのような展示があったかわかりませんが、縄文時代以前の遺跡など通史的な展示がもう少しあるとよいと思います。(女性・40～50代・市外) / とてもよくつくっていると思います。日田の埋蔵物の展示企画するもっと大きなスペースをつくってはどうか?埋蔵文化財センターは土日祝日が休みなのでなかなか見ることができないし、今は遠くなったし…。せめて博物館に出先や展示品があるなどすると、嬉しいのかなと思います。(女性・40～50代・市内)→(回答)文化財保護課と協議するなどして、展示物の入れ替えが可能であれば行いたいと思います。

・DVD視聴ボタンのそばに、「おおよその所要時間は」の表示があれば、観光のものとしては時間配分がしやすいのではと思います。(女性・中学生以下・市外)→(回答)DVDのタイトルの下に上映時間〇分〇秒という表示をさせていただいておりますので、ご確認くださいませようよろしくお願いいたします。

・クイズに答えて景品をゲットできるものを増やしてほしい。(男性・中学生以下・市内)→イベントなどで景品付きのクイズを行っていますので、是非ご参加ください。

・福岡から来たのですが、ナビの電話番号設定だと、前の博物館に着いてしまったので、HPに住所で検索してくださいと言書くなりしてください。(女性・高校生～30代・市外)→(回答)ホーム

ページに今後書くようにいたします。ありがとうございました。

・もっと体験コーナーを楽しくしてほしい。(女性・中学生以下・市内)→(回答)体験コーナーに新たに生き物神経衰弱を入れてみましたので、体験してみてください。

・日田といったら下駄(日田下駄)や梨なので、下駄や梨の種類などをポスターにして、貼って見たらどうですか?アオーゼはとってもおもしろいです。(女性・中学生以下・市内)→(回答)2019年の夏に下駄の特別展をしますので、是非見にきてください。

・いつも庭の草取りをするので、草の名前くらい知っておきたいと思って見せてもらいました。大変でしょうが、季節ごとに草花の展示などがあると楽しいと思います。(女性・60才以上・市内)→(回答)草花の標本展示を企画展で検討したいと思います。

子供たちを遊ばせながらくつろげるカフェスペースが欲しいです。(女性・高校生~30代・市内)→(回答)3階は手狭なため、お手数ですが1階のカフェスペースをご利用ください。

・宇宙にいる感覚のマシンがほしい。(男性・中学生以下・市内)→(回答)単独でつくことは多額の予算を伴い難しいので、佐賀県武雄市の佐賀県立宇宙科学館をお勧めいたします。

・月一回のペースでアユのつかみどりをしてほしい。標本じゃない虫のゾーンをつくってほしい。(男性・中学生以下・市内)→(回答)アユの掴みどりは難しいのですが、夏休みに日田漁協さんなどが行うアユまつりで掴みどりがありますので、是非ご参加ください。生き物ゾーンで夏休み中心に生きているカブトムシなどの昆虫を増やしていきたいと思います。

・生き物とのふれあい体験を増やしてほしい!!(女性・中学生以下・市外)→(回答)以前は行っていますが、生き物たちのストレスになりますので、今のところは計画していません。

・生き物にエサやり体験を増やしてほしい!!(女性・中学生以下・市内)→(回答)以前は行っていますが、人数が多いと量の調整が難しくなり、今のところは計画はありません。でも夏休みなど時期を限定して行うなどの検討してみたいと思います。

・ビデオ映像の音や声が聞こえにくかったので、良くしてくれたらありがたいです。(男性・中学生以下・市内)→(回答)映像ビデオのボリュームを少しあげたいと思います。

要望についての回答は、博物館ホームページで公開し、また、館内でも公開いたします。

—多くのご感想やご要望ありがとうございました。—



光岡小学校2年生見学の様子



三隈中学校1年生見学の様子

II 調査活動

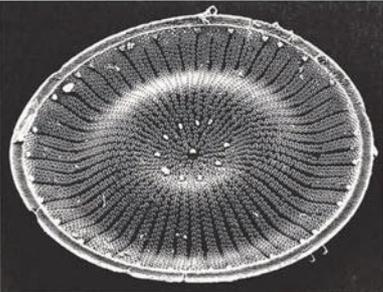
1. 大山層足跡化石発掘調査事業

平成28年度に大山町吾々路川で発掘調査を行った動物の足跡化石について、「大山層足跡化石発掘調査報告書」を作成しました。執筆の分担については、調査をご指導いただいた北林栄一先生(元玖珠町立中学校教諭)や長谷義隆先生(天草市立御所浦白亜紀資料館長)、岡村喜明先生(滋賀県足跡化石研究会代表)のほか、檀原徹先生(京都フィッシュン・トラック)、田中宏之先生(群馬県前橋珪藻研究所)、林成多先生(ホシザキグリーン財団学芸員)・八尋克郎先生(滋賀県立琵琶湖博物館学芸員)、松岡敬二先生(愛知県豊橋市自然史博物館長)、藪本美孝先生(北九州市立自然史歴史博物館学芸員)の各先生方にご協力をいただき、足跡化石のみならず、それぞれの専門分野から大山層でこれまで発見されてきている植物化石や昆虫化石、魚類化石、貝類・コケムシ化石・珪藻化石についてもご執筆いただきました。

この報告書では、大山層ではじめて確認されたサイ類やワニ類の足跡化石について、岡村先生が東南アジアなどで見られる現世動物の足跡と比較し、図やイラスト、写真を用いて詳しくご紹介されています。また、珪藻化石については、北林先生が現地周辺で採集した地層資料を田中先生が分析した結果、39属86種類が見つかり、その中には日田にちなんだ名がついた新種「ステファノディスクス ヒタエンス」も含まれていました。さらに、長谷先生により大山層の調査でわかった古環境を復元図とともに作成いただいたものも掲載しています。



大山層足跡化石発掘調査報告書



新種のケイ藻化石の電子顕微鏡写真
(日田市立博物館提供)

ケイ藻化石新種と確認

日田・大山町で発見 市立博物館で特別展

あすから

日田市立博物館(アオゼク)が2016年に同市大山町の地層から発見したケイ藻化石が、新種と確認された。「ステファノディスクス ヒタエンス」と名付けられ、昨年、学会誌に掲載。10日から市博物館で始まる特別展「太古の湖をさぐり 暮らしの生きた化石」でお披露目される。

ケイ藻は植物プランクトンの一種で、円形や三角形などの殻に覆われている。ヒタエンスはステファノディスクス(和名トケカサケイソウ)で、殻の直径は37〜75μm、中心の突起と、殻の縁に多数の針のようなものがある。突起と針の両方を持つケイ藻が見つかった。

調査に関わった前橋珪藻研究所(群馬県)の田中宏之代表(2)ら3人が、日田市中で発掘されたことからヒタエンスと名付け、昨年12月に日本珪藻学会誌(年刊)に掲載した。同学会によると例年1、2種類の新種が掲載されるという。

特別展では、動物化石や、大山町の発掘調査の写真パネルなど150点を展示。化石を顕微鏡で観察したり、触れたりするコーナーもある。同博物館は「ヒタエンス」など、昔々の日田の生物に思いをはせてほしい」と話している。

5月6日まで、入場無料。午前9時〜午後5時(月)

日田市立博物館110
973(2)5394
(藤田沙智)

西日本新聞 平成30年3月9日

3. 埋没樹木の確認調査

平成 29 年 7 月に起こった九州北部豪雨の影響により、日田市と東峰村の県境を流れる川が氾濫し、護岸が壊れるなどの大きな被害が発生しました。その際に、日田市からわずか 100m ほど東峰村に入った川の護岸が抉れた所から、幹の直径が 80 cm はあろうかと思われる巨木が数本川に突き出した状態で発見され、11 月に東峰村教育委員会より現場確認の依頼がありました。

そこで、11 月 12 日に博物館協議会委員の木戸道男先生のご指導のもと、埋没樹木と現場周辺の状況を確認しました。木戸先生の分析によると、発見された埋没樹木は阿蘇 4 火砕流によるもので間違いのないとの判断をいただき、東峰村教育委員会へも報告されました。

その後、東峰村では福岡県教育委員会及び文化庁と調査や活用方法について協議を行い、日田市で発見された小野川埋没樹木の堆積状況とは異なり、阿蘇 4 火砕流によって倒された樹木がそのままの状態が残ったと考えられることから、阿蘇 4 火砕流堆積物の状況や埋没樹木の倒れ方、周辺の古環境も含めて平成 30 年度に調査委員会を立ち上げ、保存活用のための調査を行うことになりました。また、東峰村教育委員会より当館へも協力依頼があり、視察をいただいた際に博物館で行っている展示での活用方法や収蔵方法などを説明しました。



東峰村埋没樹木産出状況



現地指導する木戸先生

Ⅲ 教育普及活動

1. 展示事業

(1) 特別展

『太古の湖とそこに暮らした生きものたち—大山層と足跡化石が語る大昔の大山町—』

期間 平成 30 年 3 月 8 日(土)~5 月 6 日(日)

場所 複合文化施設 1 階多目的ホール 期間中の入館者数 1,575 人

講演会「大山町にワニが棲んでいたってほんと!?!」岡村喜明先生 参加者 19 名

平成 29 年度の特別展では、大山層から発見された足跡化石とその古環境を市民に知ってもらうことを目的に開催しました。展示にあたっては、滋賀県立琵琶湖博物館、宇佐市教育委員会より貴重な化石を借用するとともに、図録作成や特別展会場で流す映像作成、また展示に関わる資料採集や同定など長谷義隆先生、北林栄一先生、田中宏之先生にご指導いただきました。

また、3 月 25 日(日)には岡村喜明先生による講演会を開催しました。講演会では、大山層から発見された足跡化石の意義や足跡化石の見つけ方などを子どもたちにも分かりやすいよう詳しくお話をいただき、子どもたちもとても楽しそうでした。また、会場で行っていた「足跡の謎解きクイズ」については、講演後に岡村先生より正解を発表していただきました。

先生方及び各関係機関の職員の皆様には、図録作成から展示にいたるまでご協力いただき、とても見ごたえのある展示を行うことができました。

また、日立ハイテクノロジーズより電子顕微鏡の無償貸与が提案され、期間中の 4 月 27 日~5 月 6 日まで、来館者が自ら珪藻化石を探してミクロの姿を大きく見ることのできる体験コーナーを設置しました。

この展示会は、大山公民館の協力で、平成 30 年 9 月から平成 31 年 3 月まで引き続き行っています。また、特別展で製作した DVD「太古の湖とそこに暮らした生き物たち」は各小中学校に配布し、学校教材として活用を図っています。



展示図録(左)とDVD(右)



展示室入口の体験コーナー



ビデオ映像コーナー



火山活動と大山町の地形誕生



大山層から発見された昆虫・植物化石



太古の湖のイメージと剥製



足跡が発見された地形と地質



発見された足跡化石と発見時の状況



特別展クイズ「謎解きは講演会のあとで」



国内で見つかった足跡化石とシリコンの型



津房川層(宇佐市)のカメ・ワニ等の化石



津房川層(宇佐市)サンバジカ・ミエゾウ化石



化石をさわってみようのコーナー



岡村喜明先生(滋賀県足跡化石研究会代表)の講演会の様子



岡村喜明先生の展示解説および特別展クイズの正解発表の様子



(2) 企画展

『地震から学ぶ～断層活動と熊本地震～』 平成 29 年 5 月 27 日(土)～7 月 2 日(日)

場所 博物館企画展示室 期間中の入館者数 1,240 人

平成 28 年に発生した熊本地震は、4 月 14 日の前震に続き、16 日未明に起こったマグニチュード 7.3 の本震によって、熊本地方を中心に大きな被害をもたらしました。博物館協議会委員の木戸道男先生が所属する英彦山団研グループは、地震発生直後からその引き金になった断層の向きや広がり、そして被害の状況などを、とくに地震被害の大きかった益城地域から阿蘇地域、由布院地域をまわって克明に記録していました。その目的は、より詳細な現場の記録を残して、今後の防災に生かしてもらうためでした。

この熊本地震では、日田市でも最大震度 5 強を記録し、山地部の多い地形であるために山体崩壊やがけ崩れ、落石も多発していました。そこで、熊本地震の教訓をこれからの地震対策として市民の暮らしに生かしてもらうために、木戸先生並びに英彦山団研グループの協力のもと、特別企画展を開催しました。また、熊本地震の震災体験に基づく絵本「ネココの熊本地震日記」(みやわきりこ著)をご本人よりご寄贈頂き、会場横で展示しました。



企画展会場の様子

特別企画展講演会

演 題 「平成二十八年熊本地震の復興と課題」

講 師 久留米大学 木戸道男先生

日 時 平成 29 年 6 月 10 日

場 所 アオーゼ 2 階会議室

参加者 30 人

この企画展に伴って、木戸先生に企画展の内容をより市民に分かりやすく伝えるため、「平成 28 年熊本地震の復興と課題」と題した講演会を開催いたしました。



講演会の様子



熊本地震に学ぶ企画展

日田市立博物館 新聞紙面や調査結果展示

熊本地震の被害を伝える新聞紙面や研究者による被災地調査の結果をパネルや写真で紹介する特別企画展「地震から学ぶ」断層活動と熊本地震」が、日田市内の市立博物館（アオーゼ）で開かれている。7月9日まで、入場無料。熊本地震では、日田でも最大震度5強の揺れを観測。熊本県小国町や阿蘇市へ通じる国道で土砂崩れが発生するなどの被害があり、観光業もダメージを受けた。同館は「あらためて地震の怖さを知り、普段から防災について考えてほしい」と呼び掛ける。

展示では、2016年4月14日の「前震」発生を伝える記事から、同12日に日田市の中学生が阿蘇益城町の仮設団地へクリスマスツリーや映像で紹介。由布市湯布院地域で行った3千戸の家屋調査で、4割の家屋がなんらかの被害を受け全半壊が260戸を超えていたことを報告している。開館時間は午前9時～午後5時、月曜休館。同館II 0973(5)3894 (小山勝也)

熊本地震から学ぶ

日田市立博物館で特別企画展

日田市立博物館の特 別企画展「地震から学ぶ」断層活動と熊本地震」が、日田市内の市立博物館（アオーゼ）で開かれている。「地震で学んだものを、暮らしにどう生かすか、後世に伝えるのが目的。入場無料。7月2日まで、月曜休館。本展の被害に関して、昨年4月14日にマグニチュード(M)6.5の前震、16日にはM7.3の本震が発生した熊本地震。益城町や阿蘇地方、由布市などに入った木戸道男・久

由布 犠牲ゼロ「過去の教訓生きた」

飛び出し、隣人らと寄り添い、指定の避難所に避難したから」と指摘。1975年の奥中部地震(M6.4)、2006年の奥西部地震(M6.2)の教訓が生き、地域コミュニティが健在だったと指摘する。また、土砂崩れによる幹線道路寸断、水道切断などがあった日田地域については、日本書紀や豊後風土記に記述がある大地震を紹介。一部に断層がかかり、「万一に備えておくのが大切」と警鐘を鳴らしている。



『日田で見られる昆虫大集合』展 平成 29 年 7 月 15 日(土)~10 月 9 日(月)

場所 博物館企画展示室

期間中の入館者数 4,300 人

日田市は、1,000メートルを超える標高の高い山々やそこから流れ出るたくさんの川があります。昆虫をはじめとする生き物たちは、こうした自然を利用して逞しく暮らし、豊かな自然生態系ができあがっています。佐々木茂美先生は、日田市在住(現在由布市)で、この自然豊かな山や川で、54年間で10万を超える昆虫を採集し標本にしてきました。色美しい昆虫たちは、先生にとっては宝のようなもので、日々昆虫を追いかけ、そして標本として飾るのが何よりの楽しみと言います。そんな先生でも、虫の世界はわからないことだらけと考え、いつも昆虫図鑑を片手に研究に勤しみ、多くの新種も発見してきました。そこで佐々木先生がこれまで集められた昆虫の集大成として、夏休みを挟んで子どもたちに昆虫の不思議な魅力を知ってもらい、親しんでもらうことを目的とした企画展を開催いたしました。

また、この企画展に合わせて佐々木先生が執筆した企画展図録「日田ん虫」を作成しました。

企画展講演会

演 題 「昆虫の世界」

講 師 大分昆虫同好会副会長 佐々木茂美先生

日 時 平成 29 年 7 月 15 日(土)

場 所 アオーゼ 2 階会議室

参加者 25 名



企画展入口の様子



講演会の様子



昆虫の説明をする佐々木先生



企画展の様子

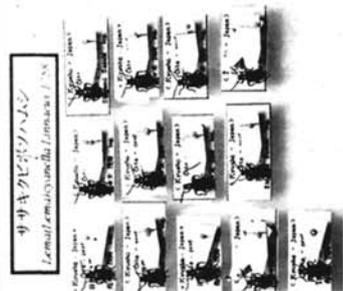
せ、寶石を扱うように丁寧に瓶に入れ、ボケットにしまった。警察官だった佐々木さんは「昆虫巡査」と呼ばれ、趣味の域を超えた昆虫の知識から解剖学者養老孟司氏や作家C・W・ニコル氏など著名人とも交流、日本甲虫学会正会員として学者も一目置く存在だ。
(小川勝也)

青葉の茂る桜の枝を、ゴルフクラブを改造した棒で斬った。ポトツ、ポトツと。広げた捕獲用の白い布に虫が落ちてくる。「おお、これは珍しいぞ！」。静かな日田市の公園で佐々木茂美さん(67)の音が響く。頭部にひげに似た觸角がある「ヒゲコマツキ」を取り上げると少年のように目を輝か

「昆虫巡査」の旅は続く



雑草が茂る畑で虫を捕る佐々木茂美さん



佐々木茂美さんの名前が付いた「オオキクビコバハムシ」



自宅の部屋は大量の標本や書籍に囲まれている



①昆虫採集学、ほとんどが自作りで20年以上使っているものもある
②佐々木茂美さんが採集に加わった昆虫採集の教科書と題する書籍「昆虫採集学」(小学)や、論文が載った書籍など



昆虫研究家 佐々木 茂美さん(67)



日田市上城内町の自宅。朝から昆虫採集に出かけ、帰宅すれば54年間で集めた3千種、10万点近い標本に囲まれた部屋で昆虫分類学の研究にいそむ。至福の日々を送る。昆虫研究の第一歩は13歳、中学の生物クラブ顧問が昆虫標本を見せてくれた。赤地に黒い文様のトンボや金緑色に輝くカミキリムシ。美しさに心を奪われた。「自分でも集めたい。自宅周辺の野山で虫を探し回るようになった。大学卒業後、警察官に。秋葉署長を務めた祖父の「現地に根ざした警察官になれ」との言葉通り、回署

や佐伯署、日田署など縁豊かな地の交番や駐在所で勤務。仕事の合間に昆虫採集をし「勤務中でも珍しい虫がいれば追い掛けた」。「昆虫巡査」としての名が全国に知れ渡ったエピソードがある。1981年、別府市の山中で身不明の白骨遺体が見つかった。遺留品もなく身元につながらず手がかりがない。遺体の周りには大量の虫の死骸。同僚の協力依頼で臨場し虫の死骸を見た佐々木さんは「1年ほど前の3月4月に亡くなったと死亡時期を推定。身元特定につながり、事件解決に貢献した。県警本部長の表彰を受けたが「虫たちを殺害してやりたかった」。その後小説家平野肇氏のミステリー小説「昆虫巡査」シリーズのモデルになるなどメディアにも度々登場した。2010年には日田市上津江町で見つ

「現場100回の鉄則」今なお

メネ 佐々木茂美さんの膨大な昆虫標本の中から、日田市内で捕まえた昆虫を中心に紹介する企画展「日田市産産(展)」が7月15日、10月8日、日田市上城内町の市立博物館3オースティンで開かれる。7月15日午後、日田からは佐々木さんの講演会(定員40人)もある。佐々木さんは「昆虫の魅力を伝えてもらい、子どもも大人も身近な自然、自らを回る機会にしてほしい」と話す。入場無料。講演会は事前申し込みが必要。市立博物館☎0973(22)5394。

けたハムシが約8年ぶりに再発見種として認定され「オオキクビコバハムシ」として学術誌に記載。これまでに10種類以上の新種を見つけた。同年に定年退職。その後昆虫採集が中心の日々。年間約1500匹の虫を採集し、顕微鏡をのぞいて細こまかな虫の手足をしそつとで伸ばして標本にする。「顕微鏡で見る虫の世界は格別だ。インターネットで全国の昆虫愛好家や研究者と交流し、昆虫を交換する楽しみが増えた。博物館や地域の自然史会などで講演し、研究者や子どもなど幅広い人に昆虫の魅力を語り「驚きに満ちた自然に預けてほしい」と願う。

図鑑や論文を読んで研究を重ねても「田田の世界は知れば知るほど分らなくなる」。警察官時代に染み付いた「現場100回」の鉄則は昆虫研究にも生きる。「100回出捕りだけはいくらでもできるもんね」。世界には500万種の昆虫がいるといわれ、発見、把握されているのはその3割ほど。毎年約2000種の新種が学術誌に記載されているという。昆虫研究は未知との出会いにあふれている。「べつびんさん」を見たら、みんなフツフとするでしょ。虫屋の楽しみも同じですよ。体が震えるような感動の出会いを求めて、終わなき旅が続く。

『日田で見られる昆虫大集合』展 平成 29 年 7 月 15 日(土)~10 月 9 日(月)

場所 博物館企画展示室

期間中の入館者数 4,300 人

日田市は、1,000メートルを超える標高の高い山々やそこから流れ出るたくさんの川があります。昆虫をはじめとする生き物たちは、こうした自然を利用して逞しく暮らし、豊かな自然生態系ができあがっています。佐々木茂美先生は、日田市在住(現在由布市)で、この自然豊かな山や川で、54年間で10万を超える昆虫を採集し標本にしてきました。色美しい昆虫たちは、先生にとっては宝のようなもので、日々昆虫を追いかけ、そして標本として飾るのが何よりの楽しみと言います。そんな先生でも、虫の世界はわからないことだらけと考え、いつも昆虫図鑑を片手に研究に勤しみ、多くの新種も発見してきました。そこで佐々木先生がこれまで集められた昆虫の集大成として、夏休みを挟んで子どもたちに昆虫の不思議な魅力を知ってもらい、親しんでもらうことを目的とした企画展を開催いたしました。

また、この企画展に合わせて佐々木先生が執筆した企画展図録「日田ん虫」を作成しました。

企画展講演会

演 題 「昆虫の世界」

講 師 大分昆虫同好会副会長 佐々木茂美先生

日 時 平成 29 年 7 月 15 日(土)

場 所 アオーゼ 2 階会議室

参加者 25 名



企画展入口の様子



講演会の様子



昆虫の説明をする佐々木先生



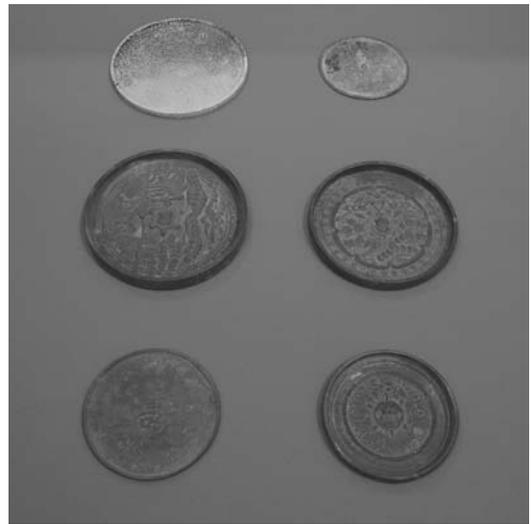
企画展の様子



展示の様子



懸仏（御前嶽神社）



鏡（御前嶽神社）



法螺貝（御前嶽神社）



津江入庭楽略縁起（佐藤英文蔵）

神様の鉾（御前嶽神社）



大乘經典（妙法蓮華經）（御前嶽神社）

《特別展～太古の湖とそこに暮らした生きものたち～の感想》

- ・化石や石をさわったりできるし、わかりやすく説明文が書いているし、字だけでなく絵もあったから、よくわかった。(中学生以下・市内)
- ・本物のシカやワニの剥製がかざってあったから、よく観察できた。(中学生以下・市内)
- ・化石がたくさんあっておもしろかったです。(中学生以下・市内)
- ・クイズが毎週かわって面白いのでよかったです。(中学生以下・市内)
- ・キャラクターがいたる所でしゃべっていてとても楽しかった。(中学生以下・市内)
- ・とてもわかり易く、新しい知識が得られました。(女性・60代以上・市内)
- ・すばらしい展示なので、もっと宣伝してたくさんの人に見てもらいたいです。(男性・20～30代・市外)
- ・小学生も参加できるイベントが毎回いいなと思っています。自分の住む地域の大昔の様子には、子供のころから興味を持っていました。一度でじっくり読みつくす、見つくすことが子連れだとできにくいので、同じ企画でも、似た企画でも、何度も開催してくださるとありがたいです。(女性・20～30代・市内)
- ・大山の昔を知ることができました。いろんな動物がいたことも初めて知り、びっくりしました。(女性・40～50代・市内)
- ・普通の授業でいかそうと思いました。(男性・高校生・市内)

《企画展～地震から学ぶ～の感想》

- ・地震災害の大きさにびっくりした。(男性・60才以上・市外)
- ・何かに備えて等、災害のことをもっと展示してほしい。(女性・中学生以下・市内)
- ・本震の後、終息にむかうという通説がくつがえってしまった。自然は人間の想像しただけでは及ばない。考え直さなければならない。いずれ自分の地域が地震におそわれることを常に頭に置いておかねばならない。(男性・60才以上・市内)
- ・地震の新聞を見たら、夜が怖いという人がいました。私も怖いです。でもまず、自分ができることをして、身を守りたいです。地震のことがよくわかりました。(女性・小学生以下・市内)

《企画展～日田で見られる昆虫大集合～の感想》

- ・小さな虫やきれいなちょうちよが見れてよかったです。とても楽しかったです。(女性・中学生以下・市内)
- ・とてもきれいで楽しい。よく集めていると思いました。(男性・中学生以下・市内)
- ・日田の生き物のことがよくわかった。すごかった。(男性・小学生以下・市内)
- ・昆虫の大切さ、昆虫のいろいろなことが知れてよかったです。日本にいる外来種が、もともと日本にいるものに害を与えていることを知って、私たちにもできることがあればしたい。(女性・小学生以下・市内)
- ・楽しかったです。夏休みの遊び場所にもってこいですね。(女性・40～50代・市内)
- ・見やすく分かりやすい標本で子どもから大人まで幅広く楽しめる企画でした。(男性・20～30代・市外)
- ・高校生の頃まで日田市で育ちましたが、子どもの頃に虫取りをしていた時に見つけた虫を見ることができ、なつかしくなりました。そして、当時、名前を知らずにいた虫の名前を知り、今の子どもたちにとって良い施設だとうらやましく感じました。さらに良い環境になることで、見ることのできる虫は増えるので、今後の世代に期待します。(男性・20～30代・市外)
- ・都合で一人できたのは残念です。今度、孫を連れてきたいです。小さな昆虫の標本展示はすごいですね。私のヤママユの写真もどこかに飾らせて…。また、来ます。(女性・60才以上・市内)

- ・日田周辺の昆虫について、くわしく、ていねいにまとめられていて、楽しく拝見させていただきました。佐々木さんのすごさがよくわかりました。(男性・60才以上・市外)
- ・「これって〇〇なの？」って思うこともあって、とっても楽しかったです。ハチが好きなのでたのしかったです。(女性・中学生以下・市内)
- ・めずらしい昆虫たちを見れて感激しました。(女性・40～50代・市内)
- ・ループがあり、子どもたちがとても喜んだ。今まで虫が嫌いだったが、よく見るととてもキレイで、虫を怖がる事はないと子どもたちに教えることができ、とてもよかった。(女性・20～30代・市内)
- ・珍しいと思っていたら、実は身近にいる虫たちでびっくりしました。楽しい発見でした。(男性・40～50代・市内)
- ・とても微細な昆虫の標本におどろきました。根気が必要ですね。虫とともに植物の知識がないといけないなのだと思いました。(男性・40～50代・市外)
- ・日頃、目にしないタガメやゲンゴロウが見れてよかった。今、消毒のせいで見かけない。(男性・40～50才・市内)

《企画展～日田の山々と信仰～の感想》

- ・興味があり、三回観覧させていただきました。毎週かわるクイズもあり、今後も楽しい企画展とクイズを心待ちにしております。(男性・40～50代・市外)
- ・説明がすごくわかりやすく、丁寧。もう少し、展示部物があれば…。(男性・40～50代・市外)
- ・英彦山・岳滅鬼山等の山の位置や内容など再確認でき、いろいろと勉強できました。今度登ってみます。(男性・60才以上・市内)
- ・子ども向けにやさしい言葉を入れるといいと思う。キャラクターや笑えるところなどがほしい。(女性・小学生以下・市内)

多くの感想等ご記入くださいますと、ありがとうございます。



(3) 第 56 回小・中学生自然研究作品展 平成 29 年 9 月 17 日(日)～10 月 1 日(日)

出展数 218 点 期間中の入館者数 964 人(大人 429 人子供 535 人)

この作品展は、昭和 36 年度からはじまり、子どもたちが夏休みの自由研究として取り組んだ作品のうち、「自然・科学」をテーマとしたものを対象に各学校から優秀作品を選び一堂に展示する催しで、平成 29 年度で 56 回目を迎えました。市内の小中学校 18 校から力作 218 点が寄せられ、この中から各学校理科主任や博物館協議会委員・博物館職員の投票・審査を経て、成績のよかった 64 作品に教育委員会賞を授与しました。

また、ご後援ご協力をいただいた報道関係機関や関係団体から特別賞をいただきました。

教育委員会賞

—小学生標本作品の部—

【昆虫標本】(6名)

光岡小 1 年武内優月 日隈小 2 年山田龍太 三芳小 2 年藤井和志 三芳小 4 年藤井智隼
三芳小 4 年上野諒磨 三芳小 6 年上野琢磨

【植物標本】(2名)

咸宜小 2 年多嶋田芽生 三和小 5 年井上英莉

【岩鉱石標本】(1名)

有田小 6 年河野萌称

—中学生標本作品の部—

【植物標本】(4名)

三隈中 1 年辻佑空 三隈中 1 年蒲池泰央 三隈中 1 年日野瑞希 三隈中 1 年石井恵利子

—小学生観察研究作品の部—

【観察研究記録】(47名)

咸宜小 1 年原茉莉奈 桂林小 1 年松本南緒 高瀬小 1 年栞野暖斗 光岡小 1 年井上麻衣
光岡小 1 年坂本悠虎 三芳小 2 年重藤浩太 三和小 2 年中島弥太郎 三和小 2 年浦塚楓佳
日隈小 3 年梅山奈乃 三芳小 3 年梶原彩愛 桂林小 3 年岩崎南奈 日隈小 3 年田邊璃奈
咸宜小 4 年多嶋田大悟 三和小 4 年小野公次郎 大山小 4 年矢羽田一惺 日隈小 4 年西田姫花
日隈小 4 年弥永穂風 日隈小 4 年三隅春奈 大明小 4・5 年飯塚拓人・飯塚研人 (共同作品)
咸宜小 5 年原口宗大 高瀬小 5 年廣瀬帆香 光岡小 5 年坂本悠晟 有田小 5 年井上千弘路
桂林小 5 年杉野里奈 三和小 5 年華藤善優 津江小 5 年津山蓮 東溪小 5 年河野晃希
高瀬小 5 年栞野壽斗 有田小 5 年村上倫 大明小 5 年原田陽奈子 桂林小 5 年宮崎智貴
桂林小 5 年森山嘉子 咸宜小 6 年井上悠大 日隈小 6 年久富慎太郎 三芳小 6 年穴井香湖
有田小 6 年森澤優 朝日小 6 年重石佑月 大明小 6 年森山優 石井小 6 年原田紳助
高瀬小 6 年川添永翔 高瀬小 6 年草本観多 光岡小 6 年小口未来 光岡小 6 年横尾怜央
三芳小 6 年金子汰生 桂林小 6 年岩崎結衣 桂林小 6 年中島妃那 桂林小 6 年豊福弘士郎

—中学生観察研究作品の部—

【観察研究記録】(4名)

三隈中 1 年長田妃莉 三隈中 1 年穴井菜々実 三隈中 1 年西邑咲良 北部中 1 年手嶋郁寧

特別賞

【毎日新聞社賞】日隈小 4 年三隅春奈「鳥の観察と鳥マップ」

【西日本新聞社賞】日隈小 3 年梅山奈乃「ミクロのせかい」

【大分合同新聞社賞】咸宜小 4 年多嶋田大悟「2017、7月」

【読売新聞西部本社賞】石井小 6 年加藤煌大「スズメバチの巣」

【地元新聞社賞】有田小 4 年後藤結依「バターを作ろう」

【KCV コミュニケーションズ賞】大明小 4・5 年飯塚拓人・飯塚研人「だんだん(立体)地図」

三和小 5 年岩藤慧「薬の書～3本セット～」

【郷土日田の自然調査会賞】三芳小 6 年穴井香湖「ひめうずらの観察日記」

【日田自然愛好会賞】咸宜小 2 年多嶋田芽生「植物標本」

【ひた水環境ネットワークセンター賞】日隈小 4 年西田姫花「簡易ろ過装置のせい作と実験」

【日田天文同好会賞】桂林小 6 年岩崎結衣「[月]のふしぎ調べ」

【日田市連合育友会賞】日隈小 3 年田邊璃奈「本当にわるい？かいわれ大根とタバコの害について」

【日田漁業協同組合長賞】石井小 4 年竹内結愛「日田の名物 鮎」

【ひた少年少女発明クラブ協議会賞】三和小 2 年中島弥太郎「ビー玉ジェットコースター」

【日本野鳥の会日田支部長賞】日隈小 4 年三隅春奈「鳥の観察と鳥マップ」

【朝日新聞大分総局賞】桂林小 1 年松本南緒「いろいろなおとさがし」

【博物館協議会委員長賞】有田小 6 年河野萌称「岩石の研究」

【博物館長賞】光岡小 1 年井上麻衣「いきもののあし」

【日田昆虫同好会賞】日隈小 2 年山田龍太「こんちゅうさいしゅう」

【ひたスタイル賞】有田小 6 年河野萌称「岩石の研究」

桂林小 1 年松本南緒「いろいろなおとさがし」

三芳小 3 年高倉伊織「ピンホールカメラをつくったよ！！」

大明小 3 年太郎良有可「飼いネコのかんさつ」

光岡小 5 年坂本悠晟「ぼくの家につばメがやってきた～つばメの観察～」

桂林小 5 年杉野里奈「パンの横に何を置いたらカビがはえやすいか」

三和小 5 年中島日和「尺玉すいかについて」

三和小 5 年華藤善優「天気の変化・天気図」

津江小 5 年津山蓮「ペットボトルを利用した水温の変化」

高瀬小 5 年栗野壽斗「栗野壽斗たんけん隊」

出展内訳表（学校・学年別）

—小学校の部—

	学校名	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
1	三和	2	3	1	2	8	2	18
2	若宮	1		2	7	1	1	12
3	咸宜	2	1	3	3	3	2	14
4	大山			1	3	4	9	17
5	日隈	2	4	3	6	3	2	20
6	津江					1		1
7	石井		1	1	1	3	5	11
8	東溪					8		8
9	高瀬	1		1		4	2	8
10	光岡	4	2	3	2	3	3	17
11	三芳	1	3	5	3		8	20
12	小野			1				1
13	有田			3	3	4	3	13
14	朝日				1	1	1	3
15	大明	1		2		2	1	6
16	桂林	1	2	3	3	5	6	20
計 16 校		15	16	29	34	50	45	189

—中学校の部—

	学校名	1年	2年	3年	合計
1	三隈	13			13
2	北部	16			16
計 2 校		29			29



作品展示の様子



日田市立博物館で開催されている「第56回小中学生自然研究作品展」

小中学生の自然研究展示

日田市九州豪雨テーマも

日田市の小中学生が夏休み自由研究で取り組んだ力作を展示する「第56回小中学生自然研究作品展」(西日本新聞社など後援)が17日、アオーゼ(同市上城内町)3階の市立博物館で始まった。来月1日まで。博物館主催で毎年開催しており、植物や動物の観察記録など218点が展示されている。今年には「線状降水帯と災害について」や「災害と天災のおそろしさ」など、九州豪雨に関連する研究が目立ったという。光岡小5年の坂本悠晟君(11)は、家にツバメが巣を作ったことから、ひなの巣立ちまでを観察。理科教員や博物館研究員などが優秀な作品を選ぶ教育委員会賞(64点)に選ばれた。坂本くんは「オスとメスが協力して子育てする姿が興味深かった」と話した。同博物館0973(2)5394。(藤田沙智)

西日本新聞 平成 29 年 9 月 21 日



作品展の様子

夏休み 自由研究作品展

自然科学分野 日田・小中学生の218点



小中学生の力作が並ぶ会場

日田市内の小中学生が夏休み自由研究で取り組んだ自然科学分野の自由研究作品展が、同市上城内町の市立博物館で開かれている。10月1日より、各校が選抜した計218点を展示。同館によると、1961年に始まった企画展で、今年も小学校13校、中学校2校から応募があり、市内が広範囲で被災した豪雨を取り上げた作品が目立ち、例年に比べて気象をテーマにした研究も増えたという。展示作品のうち64点が、各校の理科主任教諭や博物館協議会委員、同館職員ら計20人による投票で「教育委員会賞」を受賞した。同館学芸員の行時志郎さん(33)は「写真やデータを多用した記録性が高い作品が増え、全体的にレベルが上がっている」と感心していた。「読売新聞西日本社賞」などの特別賞にも約30点が選ばれた。会場に作品が展示された市立三和小3年、河津柚季さん(8)は「ミクロの世界に興味がある」と話していた。入場無料。問い合わせは同館(0973・22・5394)へ。

読売新聞 平成 29 年 9 月 29 日

かった」と話した。続いて講演会があり、生活経済ジャーナリストのいものせかつみさん(大阪府)が地方の人口減少と活性化を巡る話題で講演。全校生徒444人が耳を傾けた。夏休みの自由研究218点がズラリ日田、来月1日まで日田市の小中学生が夏休み自由研究で取り組んだ自由研究をサギを約3カ月観察し、結果を模造紙やノートにまとめた。「岩石の研究」(有田小6年・河野頭柊君)は、花月川や阿蘇山で収集した220個以上を分類。全てにラベルを付け、表を作った。他に昆虫や植物の標本、新聞の天気図を切り取り日めくりにした工作物などが集まった。三和小5年の華藤善優君(10)は「セミの脱皮がきれいに並べられているのが面白かった」と話した。

みに取り組んだ自由研究をサギを約3カ月観察し、結果を模造紙やノートにまとめた。「岩石の研究」(有田小6年・河野頭柊君)は、花月川や阿蘇山で収集した220個以上を分類。全てにラベルを付け、表を作った。他に昆虫や植物の標本、新聞の天気図を切り取り日めくりにした工作物などが集まった。三和小5年の華藤善優君(10)は「セミの脱皮がきれいに並べられているのが面白かった」と話した。



昆虫の標本を見とる子どもたち

大分合同新聞 平成 29 年 9 月 21 日

2. 普及啓発活動

(1) アオーゼ1周年記念事業

ギギ男爵からの挑戦状 参加者 100人

アオーゼの開館1周年を記念して、1日限りの謎解きクイズラリー「ギギ男爵からの挑戦状」を8月6日(日)に開催しました。このクイズラリーに参加できる対象年齢は中学生以下で、保護者同伴の場合は、記念品は子どものみとして実施しました。

近年の三隈川水系では、国内外来種のギギが増加し、在来種で絶滅危惧種のアリアケギバチをはじめ在来の生物や環境に大きな被害を与えています。そこでこのクイズラリーは、遊びを通して子どもたちが間接的に外来種問題について知り、地域の川の環境に関心を持つきっかけとなればと考え行ったものです。

クイズに参加した子どもたちの多くは、保護者や友人とコミュニケーションをとりながら、楽しんで答えを探していました。これらの設定は、博物館の展示をよく見て、展示内容を理解してもらうことで、博物館への興味や関心を高めることや、理科学習に対するモチベーションの向上につなげる試みでもありました。

最後までクイズをすべて解いた子どもたちには、博物館キャラクターのギギ男爵から博物館の宝物を取り返してくれたお礼として、アンモナイトの化石がプレゼントされました。

日田の自然と文化知ろう アオーゼ1周年記念 市立博物館でクイズラリー



アオーゼ1周年を記念して開催されたクイズラリー

昨年8月に開館した日田市上城内町の市複合文化施設アオーゼ1周年を記念し、同施設3階の市立博物館で6日、クイズラリー「ギギ男爵からの挑戦状」が行われた。

ギギ男爵は、淡水魚ギギを擬人化した同博物館のキャラクター。近年、ギギは筑後川水系で増殖しており、もともと生息していたアリアケギバチ(絶滅危惧種)の保全が課題となっている。

クイズラリーは、ギギ男爵が同博物館を支配するた

め、他のキャラクターを誘拐。救出するために、日田の自然や文化に関するクイズを館内でヒントを探しながら解答し、救出するというストーリーだった。

親子連れなどが参加し「日田の鵜飼いは何百年前から始まった?」など20問のクイズに挑戦。暗号を解き、正解した参加者には記念品が贈られた。参加した日田市の日隈小1年、宮崎莉緒さん(7)は「難しい問題もあったけど、楽しかった」と笑顔で話した。

(藤田沙智)

西日本新聞 平成29年8月8日



仲間と真剣な眼差しでクイズに挑戦する子どもたち



親子で力を合わせて答えを解く



問題や謎を解くヒントは企画展示室にも…



さらに水辺の生き物コーナーにも…



わからない時には、係の人にヒントを聞く勇氣も試される



最後に宝物のありかを解き明かした人には、アンモナイトがプレゼントされた

(2) 小・中学生対象自然観察教室（自然探検隊）

参加者小学生9人・保護者3人

平成29年度から新たに小中学生を対象に、日田の美しい自然が残る場所を探検する自然探検隊員を募集し、年5回実施しました。郷土日田の自然調査会の合谷先生、春末先生、奥森先生、梶原先生が指導者として引率・説明にあたりました。参加者からは「日田にこんな美しい自然の残る場所があることを始めて知った」という感想が多く聞かれました。

	実施日	場所	参加者数
1回目	平成29年5月27日(土)	前津江町釈迦岳	12名
2回目	平成29年6月24日(土)	前津江町シオジ原生林	12名
3回目	平成29年8月26日(土)	大山町田来原	8名
4回目	平成29年9月23日(土)	天瀬町曾田の池	9名
5回目	平成29年11月18日(土)	中津江村カシノ木ヅル谷	7名



1回目 前津江町釈迦岳の探検



2回目 前津江町シオジ原生林の探検



3回目 天瀬町曾田の池の探検



5回目 中津江村カシノ木ヅル谷の探検



修了式



参加者の皆さんと先生方

(3) 夏休み小・中学生対象自然教室

平成 29 年度の夏休み小・中学生自然教室は、植物教室 1 回、昆虫教室 1 回、植物昆虫同定会 1 回、科学実験教室 2 回、干潟観察会 1 回を行いました。このうち、植物教室、昆虫教室、植物昆虫同定会は、博物館が開館した翌年の昭和 36 年から始まり、57 年以上続く歴史ある教室です。また、科学実験教室はこれまで夏休みのみの開催でしたが、人気があるので平成 30 年度からは回数を増やし、年 10 回の開催を行っています。干潟観察会は、中津市の N P O 法人水辺に遊ぶ会の協力で平成 22～26 年まで行ってきましたが、平成 27・28 年度は博物館移転作業のために休止していました。平成 29 年度より再び開催することにしました。各教室の開催日、参加人数、内容等は下記のとおりです。

	実施日	場所	参加者	指導
植物教室	平成 29 年 7 月 30 日(日)	前津江町釈迦岳	7 名	郷土日田の自然調査会
昆虫教室	平成 29 年 7 月 22 日(土)	菽尾公園・3 階体験学習室	18 名	郷土日田の自然調査会
植物昆虫同定会	平成 29 年 8 月 20 日(日)	アオーゼ 3 階体験学習室	13 名	郷土日田の自然調査会
科学実験教室	平成 29 年 8 月 8 日(火)	アオーゼ 3 階体験学習室	37 名	ひた少年少女発明クラブ
干潟観察会	平成 29 年 8 月 5 日(土)	中津市大新田浜	18 名	N P O 法人水辺に遊ぶ会

※科学実験教室は 1 回目(午前)21 名、2 回目(午後)17 名



植物教室



昆虫教室



植物昆虫同定会



科学実験教室



干潟観察会

(4) 夏休み図書館・博物館スタンプラリー

期 間 平成 29 年 8 月 1 日 (火)～13 日 (日)

参加者 365 名

平成 21 年度より図書館と博物館が連携して、子どもたちに両施設の活用を促すため、夏休みスタンプラリーを行っています。

平成 29 年度は、「たんそう図書館を攻略せよ」というテーマでクイズラリーを行いました。博物館では、常設展示室の壁面にクイズを用意し対応いたしました。子どもたちはみんな楽しそうにクイズにチャレンジしていました。



(5) MKG(三隈川)総選挙

投票期間 平成29年7月15日(土)～8月17日(木) 投票結果発表 8月19日(土)

参加者 140名

日田には大小160以上の名前を持つ河川が流れていますが、その中には魚類や両生類、爬虫類、甲殻類など多くの生物が暮らしています。博物館の水辺の生き物コーナーでは、市内に生息する生き物たちの生態展示を行っていますが、より多くの市民に川や水辺に暮らす生き物に関心を持ってもらうため、みんなの好きな川の生き物ナンバー1を決める総選挙(MKG総選挙)を平成26年度より行っています。

投票の結果、平成29年度は立候補48種の中から「メダカ」がみごとMKG第1位の座を獲得いたしました。



MKG総選挙のポスターと結果

(6) 一般市民対象自然教室

博物館では、一般対象自然教室として、日田天文同好会に指導いただいて星空観察会(春・夏)を、日田自然愛好会に指導いただいて自然観察会(春・秋)を、日本野鳥の会大分の日田地区支部に指導いただいて探鳥会(春・秋・冬)を実施しています。実施日等は以下のとおりです。

星空観察会

内容	実施日	場所	参加者数	指導
春の星空観察会	平成29年5月2日(火)	桂林小学校	52名	日田天文同好会
夏の星空観察会	平成29年7月29日(土)	桂林小学校	21名	日田天文同好会

探鳥会

内容	実施日	場所	参加者数	指導
春の探鳥会	平成29年5月28日(日)	大川内山	16名	日本野鳥の会日田地区支部
秋の探鳥会	平成29年11月19日(日)	萩尾公園	13名	日本野鳥の会日田地区支部
冬の探鳥会	平成30年2月4日(日)	亀山公園	15名	日本野鳥の会日田地区支部

自然観察会

内容	実施日	場所	参加者数	指導
春の自然観察会	平成29年4月23日(日)	別府市猪の瀬戸湿原	39名	日田自然愛好会
秋の自然観察会	平成29年10月7日(土)	南小国町黒川清流の森	36名	日田自然愛好会



星空観察会



春の探鳥会



秋の探鳥会

冬の探鳥会



春の自然観察会

秋の自然観察会

(7) 職場体験の受け入れ

博物館では、毎年中学校からの要請により、職場体験を実施しています。平成 29 年度は、9 月 7 日に北部中学校 2 年生の矢野健斗・岩木歩夢さんの 2 名が、1 月 17・18 日に三隈中学校 2 年生の稲尾まりん・永山絢那・新川歩夢さんの 3 名が、2 月 9 日に大明中学校 2 年生の中原美遥・坂本早希さんの 2 名が職場体験に来てくれました。

体験内容としては、展示室や展示物の清掃、資料の作成などを行いました。来館者から気付かれにくい裏方の仕事や通常は博物館スタッフでなければ触れられない展示物に触れさせることで、博物館の仕事を身近に感じ、関心をもってもらえたらと考え体験していただきました。



職場体験(ワニの掃除)の様子

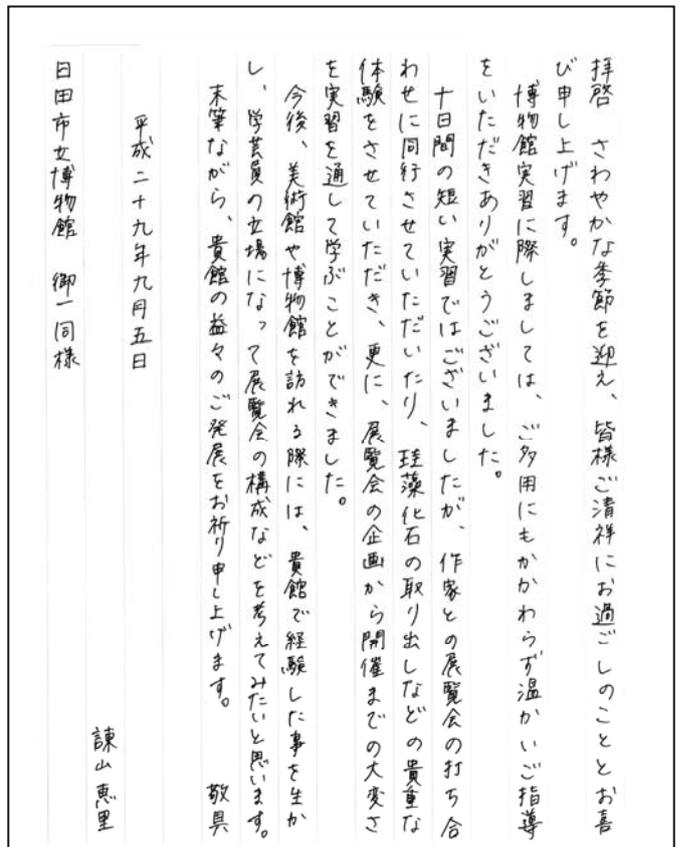
(8)博物館実習の受け入れ

博物館では、大学の依頼により、博物館学芸員資格修得のための博物館実習の受け入れを行っています。平成 29 年度は、崇城大学芸術学部美術学科 4 年生の諫山恵里さんが 8 月 1 日から 11 日までの延 10 日間にわたり博物館実習を受講しました。

実習では、博物館の館内整理や夏休み小・中学生対象自然教室の準備や補助、社会教育課が実施する美術展示の補助などに従事しました。また、美術学科生としてイラストを手掛けた経験もあることから、ニホンアマガエルをもとにした博物館キャラクターの製作にも取り組みました。諫山さんの作品は水辺の生き物ゾーンの中の両生類のコーナーに展示活用しています。



諫山さん製作のキャラクター
アマガエルのあまちゃん



(9) 博物館見学(団体)

アオーゼが開館して以来、多くの学校や地区公民館などが見学を訪れ、博物館を活用していただきました。

団体名	日	人数	団体名	日	人数
すずめの学校	4月13日	20名	三隈中学校1年	9月29日	85名
福岡大学学生	5月13日	41名	西有田公民館	10月5日	30名
やまびこ学級	5月16日	5名	朝日小学校	10月5日	30名
福岡県老人会	5月19日	32名	なかつえ保育園	10月6日	8名
東有田社会福祉協会	5月24日	30名	いつま小学校	10月13日	8名
ルーテルこども園	5月31日	45名	光岡小学校2年	10月17日	87名
西有田公民館	6月14日	27名	三芳小学校	10月24日	57名
東有田中同窓会	6月18日	20名	田川社会教育振興協議会	10月25日	13名
ルーテルこども園	6月22日	34名	光岡小学校1年生	11月2日	107名
若宮小学校	6月25日	70名	東溪小学校3年生	11月7日	13名
延寿寮	6月28日	10名	大山小学校3年生	11月17日	15名
大山公民館	7月21日	20名	屋久島小学校	11月23日	38名
高瀬学童	8月2日	40名	桂林小学校2年生	11月24日	50名
公民館主事会	8月5日	13名	石井小学校2年生	11月28日	19名
月隈こども園	8月30日	45名	みそらこども園	12月14日	24名
ルーテルこども園	8月31日	25名	三芳公民館	12月21日	10名
月隈こども園	8月31日	14名	朝日こども園	1月19日	14名
桂林病院託児所	8月31日	4名	三和小学校3年生	2月20日	51名
大山公民館	9月14日	20名	東峰村教育委員	2月23日	7名
三隈中学校1年	9月28日	85名	小野小学校5年6年	2月23日	9名



西有田公民館見学の様子



屋久島の子どもたち見学の様子

IV その他

アユの産卵

博物館では、平成 26 年度よりアユを水槽内で飼育し展示公開しています。アユは、奈良時代の書物「豊後国風土記」に…年魚多(さわ)にあり…と記されており、以前は 3 月になると、筑後川河口付近で生まれたアユの稚魚が群れをなして三隈川を遡上していく姿が見られたようです。昭和 28 年の夜明ダムの建設以降、天然のアユが川を遡上する姿は失われました。現在は、日田漁業協同組合が稚魚を購入し、中間養殖施設で育成後に川に放流することで、日田のアユ文化はかろうじて維持されています。

博物館で展示するアユは、日田漁協の協力で放流前の稚魚を提供されたものです。平成 29 年 12 月に水槽内でアユの産卵行動がはじめて観察され、1 月下旬まで繰り返されました。卵を水槽から取り出し、ガラス容器に移して観察した結果、およそ 2 週間程度で仔魚の孵化を確認しました。その後、育成に努めましたが残念ながら成長させるまでには至りませんでした。

しかし、120 センチ水槽内での産卵・孵化は大きな話題となり、養殖技術の進歩が日田産アユの復活につながる可能性も出てきました。何とか成長につなげられるよう、職員一同アユを見守り続けていきたいと思っています。

平成 30 年からは、より多くの市民にダイナミックなアユの産卵シーンを見てもらおうと、1 階ロビーにある幅 3 メートルの大型展示水槽でアユの展示公開を始めました。

日田市博物館 水槽で飼育して 4 年目

アユが初の産卵



日田市博物館(市内上城内町)が館内の水槽で飼育しているアユがこの冬、産卵した。今季これまで稚魚22匹がふ化し、10匹が生き残っている。専門機関によると、アユは環境が整えば小さな水槽でも産卵、ふ化するが、稚魚を育てるのは難しいという。博物館は今後も稚魚の成育を見守っていくことにしている。

環境整え稚魚10匹見守る

アユの飼育は2014年度に始めた。筑後川水系の川魚の企画展がきっかけ。日田漁協(手島勝馬組合)から稚魚の提供を受け、展示用水槽(120センチ×45センチ×45センチ)で飼育。餌は同漁協から譲り受け、週1回水(カルキを抜いた水道水)替えをしている。過去3年は産卵しなかった。職員が初めて産卵を確認したのは昨年12月上旬。直径約1.5センチの卵が石に付着していた。雄に産卵の兆しを示す黒い婚姻色が表れると、1匹の雌を複数の雄が取り囲み、体を揺らしながら産卵する様子を撮影した。

県や同館、番匠おさかな館(佐伯市)などにもアユは水温や水質、餌などの成育環境に敏感だという。博物館は稚魚を別の水槽に移して、稚魚用の餌を与えている。

職員橋本知佳さん(27)は「これまで育つか心配もあるが、環境を整えながら経過観察を続けたい」と話している。

(宮本穂裕)

大分合同新聞
平成 30 年 2 月 12 日

展示のための水槽で昨年11月、アユが初めて産卵し、今年1月ふ化した日田市立博物館同市中城内町で稚魚を育てる挑戦が続いている。養殖施設以外では珍しい取り組み。担当する学芸員の橋本知佳さん(37)はアユは日田名産で、特別な魚何とてか大きく育てたいと意気込んでいる。

ふ化のアユ成育に奮闘

日田市立博物館学芸員 橋本 知佳さん



水槽で生まれたアユの稚魚を育てている日田市立博物館学芸員の橋本知佳さん。

橋本さんは、昨年4月から同館に勤務。別府市出身で、幼少期は近くの川で生き物を捕って遊んだ。広島大学院生物園科学研究科を修了後、同大総合博物館(広島県)に就職した。稚魚を飼育する手のひらサイズの容器を観察するのが日課。目をこらすと、シラウオのような長さ5センチの稚魚が5匹程度、ヒレヒレと揺らめいている。

一番の悩みは餌だ。動物プランクトンの「ワムシ」の養殖を試みたが、ワムシは増えず、逆に、餌にならないういじり虫が増殖。インターネットでワムシを購入し投入すると水質が悪化したせいか、数匹が死んでしまった。今は日田漁協の協力を得て、粉末状の餌をこまめに与えている。「捕食する動きはみられる。少しは大きくなった気がするけど、また小さいと試行錯誤の日々が続いている。」

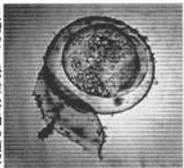
同館では、2014年からアユの飼育を始めた。橋本さ

産卵の環境整備、顕微鏡で調査

んは、市内を流れる花月川で集めた小石を水槽に敷き詰め、産卵に適した環境を整えた。17年12月中旬、水槽内の石に付いていた1センチ程度の卵を発見。すぐに同僚と、卵を食べる恐れのある目を水槽から回収。卵も一部は別の容器に移して見守ってきた。

アユは9〜12月の産卵期に、複数回に分けて2〜3万個ほどの卵を産むという。初の産卵を確認して以降、橋本さんは記録に残そうと産卵の様子を動画で撮影し、顕微鏡で卵を観察。「産卵シーンを初めて見た。黄ひれをピンと立て、生き物の輝く命を感じた」と振り返る。ふ化は自然界でも4割程度。諦めかけていたところ、1月下旬に稚魚となり、思わず歓声を上げたという。

10月4日に筑後川に夜間ダムが完成後、アユの市上が運られたため、同漁協は市内を流れる筑後川とその支流に、約4千円かけて鹿児島県などから仕入れた100万匹の稚魚を放流している。博物館で自前の稚魚の成育方法が確立できれば、安くて安定した供給が可能となる。名実ともに日田産のアユ復活となる。「またわからないことも多いが研究を続けていきたい」。橋本さんは静かに闘志を燃やしている。(藤田の智)



水槽のアユが産んだ卵の顕微鏡撮影(日田市立博物館提供)

西日本新聞 平成30年2月19日



付いていた1センチ程度の卵を職員が発見した。実験などで使う容器に移して見守ったところ、1月下旬から体長2〜3センチ程度の稚魚2匹が5匹かえった。

超短波

大分県日田市の市立博物館で、水の一つだが、天然物はダム槽に展示しているアユが産み付けた卵がふ化した。博物館によると、養殖施設ではない場所でのふ化は珍しいという。昨年12月、水槽内の石に一役買えそう。

アユ料理は日田観光の柱の一つだが、天然物はダムで遡上を遮られており、他県から稚魚を仕入れて放流している。「成長できれば、名実ともに日田産を復活できるかも」と職員。九州豪雨からの観光復興にも

西日本新聞 平成30年1月31日